

「こんにちは！知事です」（令和元年12月5日（木）三戸町立杉沢小中学校） 概要

知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換する「こんにちは！知事です」について、三戸町立杉沢小中学校での実施概要をお知らせします。

学校と地域が一体となって行っている学校行事や小・中学校の相互乗り入れ授業といった特色ある学校教育の紹介、全校児童生徒による元気いっぱいの「よさこい」演舞のあと、代表児童生徒4名と知事が意見交換を行いました。

（参加：全校児童生徒12名）

（発言児童生徒1、6年男子）

将来なりたい職業は介護士です。僕は、ボランティアスクールで高齢者と触れ合ったときに、お年寄りの方たちがとても嬉しそうにしている元気が一杯だったのが、僕にとっても嬉しく、今は介護士の仕事に興味を持っています。体が不自由で大変そうな方もいましたが、そのような人たちの症状もよく勉強し、お手伝いできたらいいなと思っています。

今、日本全体だけでなく、青森県も高齢化が進んでいると聞きました。僕たちの住んでいる三戸町、特にこの杉沢地区もお年寄りが増えてきていると聞きました。お年寄りが多くなってきた時にどんなことが心配され、どんなことに取り組んでいますか。僕としては、病院がもっと充実すればいいなと思います。



（知事）

いい質問です。

まず、お年寄りの方に会った時は、ニコッとしてくれればいいと思います。子どもたちが元気で、それぞれの集落で普段から会った時に笑いかけてくれれば、お爺ちゃんお婆ちゃんも一番嬉しいと思います。

ただ、高齢者の方が増えてきたので、県がどのような取組をしているかをお話ししますが、今、県が市町村と最も力を入れてやっていかないといけないと考えているのは移動手段です。どうやって三戸の中心街や八戸に行くかとか。そのほかにも食料品などの買い物、医療の問題もありますので、担当から説明します。

（高齢福祉保険課）

現在、青森県では、約3人に1人が65歳以上です。2045年には、65歳以上の割合が全国で2番目に高くなり、約2人に1人が高齢者になると言われています。

高齢化には大きく2つの問題があります。1つ目は、1人暮らしや夫婦だけで暮らす高齢者が増えて、雪かきや病院、買い物が難しくなるなど、生活に困る高齢者が増えることです。外に出る機会が少なくなるので、1日中会話をしない高齢者も増えます。

そのため、高齢者になっても元気に楽しく生活できるよう、介護予防や健康づくりのほか、近所同士や地域の会社などが工夫して、皆で高齢者を支え合う仕組みを作ることが大事だと考えています。

(知事)

皆で支えるから、皆も応援してね、ということです。

(高齢福祉保険課)

県では、住み慣れた家や地域で住み続けられるように、近所に集まり気軽におしゃべりをしたり、一緒に体操やスポーツをして心と体の健康づくりをしたり、趣味を通して仲間づくりをしたりできる「通い(つどい)の場」を増やすように取り組んでいるところです。ここ三戸町でも、町内21地区全てに体操や趣味の活動、おしゃべりなどを楽しむ「通いの場」があり、年間で360人もの高齢者の方が参加しています。

「通いの場」で仲間が増えることで、ご近所同士の助け合いが増え、何より元気な高齢者も増えていきます。支えられるだけでなく、支えてくれる元気な高齢者が増え、皆で助け合う青森県を目指しています。

次に、2つ目の問題ですが、高齢化が進むと、介護サービスを受けたり、施設に入ったりしないといけなくなる高齢者も増えます。そうすると、施設で働く職員も大勢必要になります。将来的には、介護職員が足りなくなってしまう、青森県だけでなく、全国的に大変な問題になると言われています。

(知事)

将来、介護士になりたいということなので、ぜひなってください。青森県で介護の仕事をしように思っている、東京など県外の介護施設も勧誘してくるので、地元で一緒に頑張ろうって、青森で働く新人介護職員を応援する大会もやっています。将来参加してね。

(高齢福祉保険課)

県では、介護職員を増やすこと、働く環境を良くすること、介護職員の技術を向上することに取り組んでいます。介護の仕事に誇りと自信をもってもらうことが大切なので、やりがいや素晴らしさを伝えるイベントをしたり、仕事を楽にする介護ロボットを使えるようにしたりして働きやすい環境づくりを進めています。そのほかにも、様々な研修で本人の意欲や能力に応じてキャリアアップできるような仕組みを作って、介護職員やこれから介護職員を目指す人を応援しています。

介護の仕事は、人の役に立つやりがいのある仕事です。今の皆さんにも高齢者の話を聞いたり、歩くのが大変な人と手を繋いであげたり、重い物を持ってあげたりとか、身近にできる介護や手助けはたくさんあります。介護や手助けを必要としている高齢者を皆で支えていきましょう。

(知事)

子どもたちが地域で出会った時に「じっちゃん、ばっちゃん」と言ってくれるだけで喜ばれます。だから、1年生に特別にお願いします。地域でいろんな人に会ったら「こんにちは」と言ってください。

かつて、介護の現場では、ちゃんと給料が払われなかったり、出産したら退職を迫られたりする時代がありました。だから、社会福祉法人ごとに給料や福利厚生、人材育成の仕組みなど、ウェブサイトで全部分かるように公開して、きちんとした法人であることを県が認定する取組をやっています。そうすることで、介護施設などで働きたい人も安心して職場を選べます。逆にい



えば、きちんとした待遇でなければ職員を雇用できない、職員を雇用できなければ経営もできないという形に改めました。

高齢者の皆さんに幸せな余生を送ってもらうためには、やっぱり支える人が必要です。そのためには、地元の人が地元に残るように待遇面から改善していかないと、条件のよい東京などに引っ張られてしまいます。

では、これからもちゃんと笑顔でいてください。心が優しいから大丈夫ですね。

(司会教員)

ほかに、知事に何か質問はありませんか。

(発言児童生徒 1)

知事はりんごが好きですか。

(知事)

もちろん好きですよ。君は、一番好きな品種は何ですか。

(発言児童生徒 1)

はるかという品種です。

(知事)

知ってます。岩手県や五戸町などで作っていますね。美味しいよね。

(発言児童生徒 1)

はるかは、新聞取材に行った時にジュースで飲ませてもらいました。

(知事)

いいりんごだよ。黄色系の美味しい品種です。

1日1個のりんごは医者いらずです。りんごを好きな証拠に、今日はPR用のTシャツを着てきました。こういうのを着て、来週は台湾で青森りんごをPRしてきます。今週は、東京でりんご、ながいも、にんにくを売ってきます。

(発言児童生徒 2、6年女子)

私は、将来なりたい仕事が決まっています。1つは看護師です。前に骨折したことがあって大変だったのですが、看護師さんが優しく接してくれてとても気持ちが楽になりました。もう1つは助産師です。私が産まれる時、母はとても大変な思いをしたそうですが、助産師さんのおかげで無事私が生まれ、とても助かったと言っていました。ほかにもなりたい仕事はありますが、今は、人の命に関わる仕事を目指しています。



青森県は飲酒、喫煙率、塩分の摂り過ぎなど、健康に不安を与える割合が高いと言われています。家族にも長生きしてほしいので、今の私たちが気を付けなければならないことは何ですか。

(知事)

今の君たちが気を付けなければいけないことは、一言でいうと、「しょっぱ口」にならないようにということです。

「しょっぱ口」というのは、味覚がしょっぱいものに慣れてしまうことです。しょっぱいものを食べ続けていると、脂っぽいものなどもたくさん食べるようになって、高血糖、つまり、血液の中に糖分が多くなり、糖尿病になってしまいます。



実は、青森県は糖尿病で亡くなる人が全国で一番多い県なんです。糖尿病になると、免疫力も弱くなります。だから、改善のスタートは食生活です。例えば、野菜をたくさん食べようとか、りんごを食べようということです。野菜を食べて、しょっぱいものを好きにならないでほしいです。

(がん・生活習慣病対策課)

県民の健康状態ですが、青森県の平均寿命は、男性は78.67歳、女性は85.93歳となっています。女性の方が少し長生きですが、残念ながら本県は全国最下位です。

では、なぜ寿命が短いのかというと、早く亡くなる方がいるためです。県民の死亡原因は、がん、心臓の病気、脳の血管の病気、この3つで半数以上を占めています。この3つの病気は、飲酒、喫煙、塩分の摂り過ぎとか食べ過ぎ、運動不足といった健康に悪い生活習慣が積み重なって起きるため、「生活習慣病」と言われています。県民が長生きしない理由は、このような体に良くない生活習慣の積み重ねにあります。

そのため、健康のためには、「健やか力」の向上が必要なんです。「健やか力」とは、健康的な生活を送り、健康診断を受け、具合が悪い時は、我慢をしないで早く病院に行くといった、健康に関する正しい知識や行動のことを言います。正しい生活習慣を身に付けて病気を予防していかないとけません。

青森県民はカップ麺や炭水飲料をたくさん食べたり飲んだりしています。食料品の購入データを見ると、しょっぱいもの、コーヒー飲料、炭酸飲料などが大好きなことが分かります。

例えば、カップ麺には4～5gの塩分が含まれています。スープまで全部飲んでしまうと、1日の食塩の目標摂取量8g(以内)の約半分を摂ってしまうことになります。また、食塩が多いとご飯もたくさん食べてしまうので、肥満にも繋がってしまいます。それから、炭酸飲料にはたくさんの糖分が含まれているので、この摂り過ぎにも注意が必要です。

そのために皆さんにお伝えしたいことがあります。血液や肉を作るたんぱく質が含まれる肉や魚、卵、力や体温になる糖質、脂質を含むご飯やいも類、体の調子を整えるビタミンを含む野菜をバランスよく食べることです。

最近はいちご野菜の摂取量は増えてきましたが、まだ目標には少し足りていません。1日あたり大人は50g、小・中学校の皆さんは35gほど足りていません。あとトマト2分の1個、プチトマトだと5個、頑張って食べてもらえると嬉しいです。

(知事)

実は、長野県と沖縄県と青森県で平均寿命サミットというものをやっていました。

長野県は平均寿命が全国トップですが、長野県民もお酒をたくさん飲みますし、野沢菜などの漬物も豊富なので、しょっぱいものもたくさん食べるそうです。

では、青森県との違いは何かといたら、長野県の方は野菜を最低でも1日350g食べるそうですが、青森県の場合は当時250gほどでした。野菜を食べれば体内の塩分や毒を出してくれるというので、野菜を食べようという運動をしてきました。中ぐらいのトマトが100gなので、「トマトをあと1個」運動を一生懸命やってきました。ミニトマトだと6～7個というところですが、勝負は野菜ということです。



(がん・生活習慣病対策課)

次に皆さんに守ってほしいことです。

朝ごはんをしっかり食べること。これも大切ですね。朝ごはんを食べると、眠っていた間に下がった体温が戻ってエネルギーとなって一日の始まりの元気の元になります。それから、おやつの食べ過ぎには注意です。夜遅くまで起きているとお腹が空いて、夜食を食べる子どもが増えています。夜遅い時間に食べると太りやすくなります。

思いきり体を動かすことも大事です。成長期にある今、運動すると骨が丈夫になる、体が強くなる、疲れにくくなる、太らなくなるなど、良い面がたくさんありますので、たくさん運動するようにしましょう。

次にたばこですが、たばこを吸うと肺が黒くなっていきます。原因はタールというものなのですが、粘り気のあるヤニと呼ばれるもので、数多くの発がん性物質を含んでいます。たばこの煙が周りの人にとって害になることもあるので、気を付けてください。

それから、最後まで自分の歯できちんと食べていくことが大事ですから、歯磨きは大切です。ゴシゴシ磨かずに細かくブラッシングしてください。

最後に睡眠です。小中学生の皆さんにとって理想的な睡眠時間は8時間以上です。十分な睡眠をとると身長が伸び、筋肉を発達させる働きのある成長ホルモンもたくさん出ます。免疫力も上がりますので、体が丈夫になります。しっかり寝て脳を休めると、記憶力や学習力も上がるので、勉強の成績もよくなるかもしれません。ゆっくり、ぐっすり寝てください。

(知事)

平均寿命は最下位ですが、健康寿命では男性が全国34位、女性は全国20位になるまで改善しました。皆さんが健康に気を遣ってくれて、本当に良くなりました。

(がん・生活習慣病対策課)

いつまでも元気であるためには、子どもの頃から健康に気を付けていくことが大事なんです。今日、聞いたことをお家に帰って、家族の人にもぜひ伝えてください。お父さんがちょっと酒を飲み過ぎているなどと思ったら「飲み過ぎでない？」と声をかけてあげてください。

(知事)

トマトをあと1個食べれば大丈夫。長野県がそう言っていました。
将来は看護師になってくれるというので、県の看護師資格のある職員からお話します。

(三八地域健康福祉部三戸地方保健所)

保健師と看護師の両方の資格を持っています。将来は看護師か助産師ということでいろいろ調べていると思いますが、看護師になるには、高校を卒業してから看護系の大学か専門学校に行って勉強し、それから国家試験に合格すると看護師になれます。

助産師になる場合は、看護師の資格を取ってから助産師の学校に行くか、看護系の大学に行って助産師コースで勉強し、看護師と助産師の両方の国家試験に合格すると助産師になれます。

私は保健師ですが、看護師も助産師も人の命に関わる、人にとっても感謝される素晴らしい仕事ですので、ぜひ頑張って国家試験に受かってほしいと思います。

(知事)

実は、本県の看護師事情には大変な問題もあります。県内の看護学校から100人の看護師が卒業すると、何人県内に残ると思いますか。100人卒業しても30人しか県内に残ってくれない状況です。100人のうちの70人(県外に出ていく人)にならないように、青森県でぜひ働いてくださいね。

ほかにも聞きたいことはありませんか。



(発言児童生徒2)

私たち6年生で、10月12日に三沢米軍基地に行きましたが、知事は最近どこの外国に行きましたか。

(知事)

この間、上海に行ってきました。来週は台湾に行ってきます。りんごやながいも、ほたてをたくさん売ってきたり、お客さんをたくさん連れてきたりします。アメリカの人もたくさん来てくれています。

青森県も外国に行くのに便利になったので、皆も将来パスポートを持って、韓国でも中国でも台湾でも行ってみたら楽しいですよ。

ただ、どこの国に行っても、子どもたちは皆、英語で話しかけてくるので、英語の勉強はしてください。

(発言児童生徒3、8年(中2)女子)

将来なりたい職業は、保育士です。私もなりたい仕事は幾つかありますが、今一番考えているのは保育士です。おじが保育士をしていることもあって、いろいろお話を聞きます。私自身も小さい子と遊ぶのがすごく大好きなので、いつもニコニコしてられる保育士になりたいです。



青森県は保育士の人数は少ない方ですか、多い方ですか。大きな都市では、待機児童という問題があるようですが、青森県ではあるのですか。

(知事)

いい質問です。意外と青森県は保育士が多いのですが、さっきの話のように、県外に出て行ってしまっている人がいるので困っています。

(こどもみらい課)

保育士の人数ですが、今、県内の保育所等で働いている保育士は6,865人で、県内の小学校入学前の子ども1,000人あたりでは131人です。これに対し、全国では小学校入学前の子ども1,000人あたりで87人となっているので、青森県は全国に比べて保育士の数が多いということが言えると思います。

青森県ではここ数年、4月1日時点の待機児童はゼロです。また、認定こども園の数も、人口1万人あたりで全国平均の5倍となっており、本県は保育所や認定こども園を利用しやすい県と言えます。

ただ、問題もあります。待機児童は4月1日時点ではゼロですが、4月を過ぎると、出産休暇や育児休暇を取っていたお母さんが徐々に仕事に復帰するので、子どもを保育所などに預けたい人が増えてきます。

そうすると、定員オーバーになる保育所もだんだん出てくるので、年度途中から待機児童が発生しています。これは、全国5番目とはいえ、まだまだ保育士が足りないということも要因の1つなので、もっと県内で働く保育士を確保しなければならないと考えています。

そこで県では、青森県保育士・保育所支援センターを立ち上げ、一旦辞めた保育士がまた保育所などで働くための支援や研修などを行っており、これまで205人が再び県内で保育士として働いています。また、平成28年度から保育士として働くために必要なお金を貸す支援も行っています。3種類ありますが、どれも県内の保育所などで決められた期間働けば返還が免除されます。

最後に、保育サービス事業所認証評価制度です。「青森県認証」という赤いマークが掲げられている事業所は、人材育成の仕組みや働きやすい職場環境を整え、県が定めた基準を満たしている、県がおすすめする事業所です。

(知事)

明確な給与体系があって、労働時間がきちんと保証されて休暇も取れたり、キャリアパスとあって、研修に行って資格を取れたりする事業所を県で認証しています。今まではそうでない事業所も多く、保育士が辞めていたのです。30歳になったから辞めてもらうとか、かつてはひどい話もありました。

そういった状況を改善するために、県で認証制度を作りました。先ほどの介護施設の認証と同じで、保育園もきちんと若い保育士が残るように仕組みを作っていますので、県内の認証を受けた事業所で保育士を目指してください。



(こどもみらい課)

このように働きやすい保育所を県内に増やし、保育士が長く安心して働ける環境を作っていくと考えています。

県では、様々な支援策を用意して保育士の確保と県民の子育てしやすい環境づくりのために頑張っています。将来、ぜひ県内で保育士として活躍してほしいと思います。

(知事)

何か質問ありませんか。

(発言児童生徒 3)

質問ではありませんが、三戸町は「11匹のねこ」で町おこしをしています。ぜひグッズをたくさん買って行ってください。

(知事)

(「11匹のねこ」のTシャツを見せて) グッズはいろんなものを持っていますよ。「11匹のねこ」シリーズが日本中のいろんなところで注目されてきて嬉しく思っています。



(発言児童生徒 4、8年(中2)男子)

僕がやりたい仕事は葉タバコ農家です。僕の家はタバコ農家です。家を継ぐと約束したので、頑張って大きくしたいです。冬は仕事がないので水道工事や燃料系の仕事をして稼いでいきたいと思っています。青森県は、喫煙率が高く健康面での不安を抱えています。葉タバコの仕事が無くなると困るので、よく考えてたばこを吸って欲しいと思っています。

青森県は、自然が豊かで三方を海に囲まれています。美味しい郷土料理や素敵な観光地もたくさんあります。青森県の魅力をもっと知ってもらったり、青森県へもっと観光客に来てもらったりするためにどのようなことに取り組んでいますか。



(知事)

観光PR用のTシャツを10枚ぐらい持っています。台湾などにPRに行くときに、冬の八甲田山の樹氷や日本一の紅葉の十和田湖、桜の名所弘前など、何枚も重ねて着て行って、歌を歌いながら順に脱いで見せたりして宣伝しています。そうすると、台湾のテレビが面白がって放映してくれます。そのように自分でもキャンペーンを一生懸命やってきました。

(誘客交流課)

青森県にたくさんの観光客の方に来てもらえるように仕事をしています。青森県の平成30年の宿泊者数は、延べ506万人もいます。特に外国からのお客様がどんどん増えており、5年前からの伸び率は全国1位です。

三戸町には「11匹のねこ」によるまちづくりが行われているほかにも、桜の名所の城山公園がありますね。そのように青森県にはたくさんの観光地がありますので、もっともっと県外からお客様に来てもらえるように、例えば、全国の旅行会社を訪問して、青森県向けの旅行商品を作ってもらいように売り込んだり、旅行会社の人に青森県に来てもらって、青森県の魅力を実際に体験してもらいようなツアーを行ったりしています。

外国人向けには、青森空港と航空路線で結ばれている台湾や韓国を中心に様々なPRをしていますが、知事も台湾のテレビ局に出演して青森県の魅力を伝えています。

(知事)

台湾のテレビ局に行った時に、テレビのキャスターの人に「せっかく来たんだから何かしゃべって」と言われて、生放送のテレビ番組に出て宣伝をしました。

(誘客交流課)

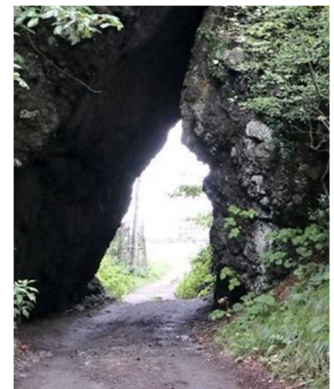
様々なPRをしていますが、青森県には四季を通して楽しめる景色やお祭り、食べ物、温泉など、全国に誇れる魅力がたくさんありますので、国内外からもっと多くのお客様に来てもらえるように、これからも積極的にPRしていきたいと思っています。

(観光企画課)

観光企画課のまると青森情報発信グループでは、青森のスタッフと東京のスタッフが、一緒に仕事をしています。県では、東京のテレビ局などに青森の情報を発信してもらうために青森のスタッフが地元の情報、例えば、味噌カレー牛乳ラーメンという美味しいものがあるという情報を見つけたら、それを東京のスタッフに伝えます。それを東京のスタッフがテレビ局に「これ、美味しいんですよ」とプレゼンテーションすると、東京のテレビ局がそれを全国放送してくれたりします。このような取組により、これまでテレビや雑誌など、多くのメディアで青森の情報が取り上げられています。

そのほかにも、今年から特に力を入れています。ツイッターやフェイスブック、インスタグラムなどを使い、自分たちで毎日情報発信をしています。私は今日もここに来る途中に「道の駅さんのへ」の食堂に青森シャモロックを使った親子丼があったので、それをツイッターに投稿しました。つい先ほど投稿したばかりですが、早くも「いいね」がたくさんついています。そういう取組もたくさんしています。

クイズです。これ、何の形に見えますか？



(その他児童生徒)

トトロ。

(観光企画課)

正解です。横を向いたトトロですね。実は、横を向いているトトロに似ていると、うちのスタッフが発見しまして、今年の8月にそれをツイッターに投稿したら、たくさんの「いいね」がついて、そうしたら全国紙やネットニュースにも取り上げられ、今では県外からこれを見に来ている観光客もいるそうです。

皆さんも「三戸にもこういうのがあるよ」ということがあれば、ぜひ教えてほしいと思います。

(知事)

関西圏からの誘客のために作った面白い動画があるのでお見せします。

(動画「ディス(り)カバリー2」放映)

見たことありましたか。青森県のPRも一生懸命やっています。

最後に、葉タバコ生産について農林水産部からお話します。

(三八地域県民局地域農林水産部)

将来、農家になりたいということで、私も非常に喜んでいますが、私がいる農業普及振興室は、農家の皆さんの農業経営や栽培技術の向上を支援しているところです。

農業は食料生産という重要な産業です。県の農業普及振興室以外にも、農協や全農青森など、農家を支援するいろいろな機関がありますので、農業をやる際は1人で悩まずにそういったところに相談してください。また、農業をする人たちの仲間を作ることも大切です。そうやって立派な農家になってくれればと思います。

(知事)

農業はとても大事だと思っています。「攻めの農林水産業」を16年前から始めて、今では1戸当たりの農家所得が2.4倍になりました。やっと農業にも光が当たってくるような感じで、UIJターンといって、県内に戻ってきて農業を新しく仕事として選ぶ人も出てきました。君が頑張ってくれてくれたこと、すごく嬉しく思います。

でも、農業をやっていくためには経営管理、財務やマーケティングも大切ですし、葉タバコを主力でやって、そのほかに、にんにくやながいもを栽培するといった複合経営もいろいろ考えてやらなきゃいけないと思います。農業は水づくり、土づくり、人づくりですから、今は一生懸命勉強して、将来の夢に向かって頑張ってください。

何か質問があったらどうぞ。



(発言児童生徒4)

安倍総理と話をしたことがありますか。

(知事)

この間、全国都道府県知事会議があった際に話をしました。「りんごはどうだ？」と聞かれたので、「絶好調です」「頑張っていて今年も売りますよ」とか、そういう話をしました。

(発言児童生徒4)

ありがとうございます。質問ではないんですが、三戸町はせんべい屋さんが意外と多いです。全部で7店舗あります。全部のせんべい屋を回って味比べしてみてください。

(知事)

いいね。私は昔からごま煎餅にバターを塗って食べるのが好きでした。母親に怒られるので隠れて食べていましたが、今は堂々と塗って食べています。煎餅にバターを塗って食べるのは体によくないので、そのまま食べた方がいいとは思いますが、バターを塗って食べるとおいしくてね。

(司会児童生徒、9年(中3)男子)

ありがとうございました。以上で発表を終わります。

三村知事、青森県職員の皆さん、僕たちの質問に丁寧に分かりやすく答えていただきありがとうございました。僕たちはこの場でのことも大事にしながら、これからも難しい課題に向けて前向きに取り組まなければいけないことも分かりました。貴重な勉強をさせていただきました。

今日はお忙しい中、遠いところまで来ていただき、本当にありがとうございました。



(知事)

校長先生をはじめ、先生方、地域の人たちが一生懸命なんだと思いますが、本当に子どもたちがのびのびと育っていて、思ったことをきちんと話ができるって、すごく良いことです。ちゃんと目を見て、ニコニコ笑顔で話してくれるというのはすごいなと思います。

将来の夢も伺いました。それぞれがちゃんと未来に向かって自分の進みたい、その方向に進むためにどうしようか考えてくれていることもいいなと思いました。

子どもたちの杉沢小中学校が大好きな気持ちを感じましたが、それが一番大事です。自分の生まれて育ったふるさと、学校が大好きだということが一番良いことだと思いました。

そして、今日は保護者の皆様もありがとうございました。

自分も一緒に頑張れる、とてもそういう気持ちになりました。

